

各位

東北地方に美しい村を復興するための応急仮設住宅に代わる “地場工務店による『村』再生”プロジェクト (K-engine Project) について

【趣旨】

1. 仮設住宅の以外の住宅を被災者に提供する

このたびの東日本大震災では、多くの被災者がその住居を失いました。政府は、首相の号令の下、この緊急対応として大量の仮設住宅を建設しましたが、仮設住宅は居住性も美観も優れたものとはいえず、それは応急措置に過ぎません。被災者の本格的な生活再建のためには、新たな恒久住宅を建設する必要があり、仮設住宅はそれにあわせて将来的に撤去されることとなります。そのため、仮設住宅の建設と恒久住宅の建設という二度にわたる支援を公共が負担しなければなりません。

一方、仮設住宅のメリットである安さと建設の速さは、三陸地方では平地が限られていて必要な公有地が不足していることや、東北地方の合板工場が被災し合板を中心とする資材が不足したことなどから、十分に機能したとは言えません。

本 Project によって、災害後の対策として、仮設住宅の建設以外の選択肢もあり得たことを知っていただけると幸いです。なお、本 Project は仮設住宅の建設そのものを否定するものではなく、仮設住宅と常設復興住宅のバランスの良い供給こそが被災者の生活再建と地域復興に必要なとの信念から提案されたものであることをご理解いただけると幸いです。

2. 国産材と地域工務店を使った木造の災害公営住宅の普及モデル

今後、被災地には、政府の支援等によって、被災者が居住するための公営住宅の建設が進められていくものと予測されます。そうした公営住宅は、大量に供給しなければならないことや居住者の公平性を意識する余り、鉄筋コンクリート造りの集合住宅になりがちです。そうした住宅ばかりでは、三陸地方にかつて存在していた地域性豊かな風景は失われてしまいます。

本 Project では、民間からの寄付を原資に建設を進めていますが、今後は民間からの寄付を国からの予算支援等の形に置き換えて、政府の災害公営住宅の制度等を利用することにより、本 Project をひとつのモデルとして、地域の工務店による木造戸建て住宅を中心にした同様のコミュニティ建設がされることを期待しています。

地域の工務店による木造の戸建て住宅なら、地域性が継承できるだけでなく、一定の期間が経過して被災者の方々の生活が安定してきた時に、家の増改築を行うことも可能です（鉄筋コンクリート造の集合住宅では増改築は容易ではありません）。この他に、国産材の利用による林業への貢献や、地域の工務店による職人さん等の雇用による地域経済への貢献も果たすことができると考えています。

【Project の概要】

名称	石巻市北上町白浜復興住宅
敷地	宮城県石巻市北上町大字十三浜字下山 15-2、56-1、57、64-16 敷地面積 4,989 m ² /所有者 有限会社熊谷産業 都市計画区域外及び準都市計画区域外・宅地 用途地域：指定なし、防火地域：指定なし
建物	住宅 11 棟 木造平屋、建築面積 44.19 m ² 、延べ床面積 42.96 m ² 3 棟 木造 2 階、建築面積 34.70 m ² 、延べ床面積 62.79 m ² 7 棟 木造 2 階、建築面積 52.46 m ² 、延べ床面積 102.03 m ² 1 棟 いずれも伝統工法による 木造 2 階の 1 棟は共同利用が可能な住宅で、他 10 棟は個人住宅の予定。 共同利用の住宅は、孤児や身寄りのない老人が共同で生活出来たり、その浴室・便所を共同利用しながら、2 階建の住宅に 2 世帯が当分の間居住したりすることも可能なので、東北地方に旧来からあった互助精神のある共同体を保護・維持することに貢献できるものと考えている。
設計	工学院大学建築学部 担当：関谷真一（結設計室代表、工学院大学客員研究員・前非常勤講師） 指導：谷口宗彦（工学院大学建築学部建築デザイン学科教授）
工事	株式会社 芽ぐみ 宮城県石巻市北上町 「芽ぐみ」は、北上町の地域振興を目的とするまちづくり会社。同社の施工管理の下、数社の地元工務店が地元の大工職人を使って建設を行う。
居住者	白浜地区の皆さん／同地区は震災により家屋が壊滅しました 漁業・養殖業等の現地での生活再建の必要性が高い方、老人世帯等の生活再建が困難な方等から優先的に居住していただけるよう、現地協力者（自治会長、副会長他）の方々に居住者の選定をお願いしている。
管理運営	工学院大学が土地所有者から借地し、建物を建設。建物の所有は、工学院大学。大学は、建物を管理運営する NPO に無償貸与。NPO は、居住者に建物を転貸し、居住者から管理費を徴収して、建物の維持管理、土地の固定資産税納入等の必要な管理運営を行う。管理費は、2 階建 27,000 円、平屋 20,000 円（月額）以内で運営可能な予定。当該費用の算定等については、日本土地建物株式会社の CSR 協力を得ている。
建設資金	工学院大学 125 周年記念の募金事業による

【建設の経緯・現在の工程他】

工学院大学では、株式会社 MonotaRO の協力を得て、美しい木造の恒久住宅を伝統工法で地域の工務店が安く速く建設することを4月の段階で計画（K-engine Project、以下「本 Project」という）しました。それに対して、民間の篤志家からの寄付の申し出があり、大学の125周年の募金事業として5月に石巻市に一つのコミュニティの建設を実施することを決定。6月に工事着手、7月14日には、現地で地鎮祭を行ないました。

現在、入居予定の4棟が完成間近となり、9月末には入居開始、10月末には入居する10棟すべての完成を目指しております。

【建設資材の調達】

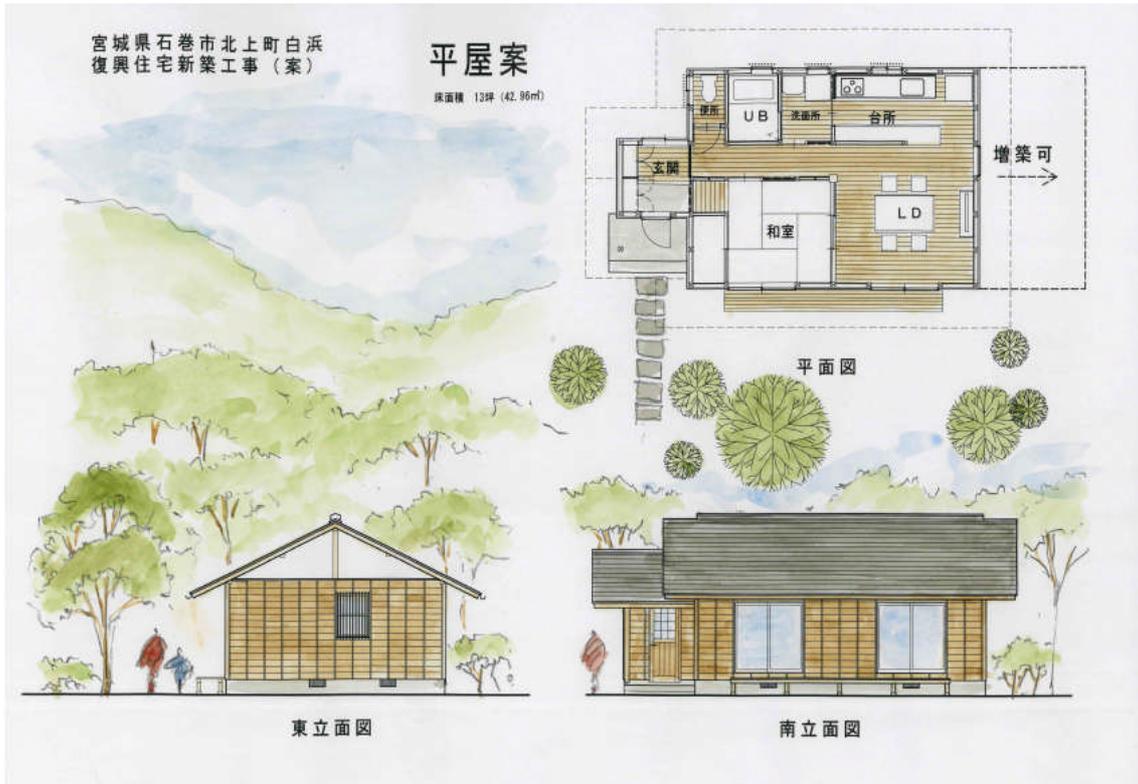
仮設住宅の大量建設等により、現地では住宅建設用資材、設備機器等が、入手困難な状況にあります。本 Project では株式会社 MonotaRO の協力で、同社が開発した建築デザインから資材の指定までを一気通貫で行えるパソコンソフト K-engine を使用することにより、必要な資材を確保しています。K-engine は、従来煩雑であった管理コストおよび物流コストを削減。資材も復興住宅への協力の精神から中間流通を省き、メーカーから直接購入することを可能にしたソフトです。

■白浜地区 復興住宅 全体イメージ



<参考資料>

■復興住宅 平屋 平面図 (案)



■復興住宅 2階屋 平面図 (案)

